

観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成26年8月6日(水) 10:03~11:12

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

岩田 国夫 委員長

辻本 黎士 副委員長

小林 照代 委員

大坪 宏通 委員

畠 真夕美 委員

森川 喜之 委員

粒谷 友示 委員

梶川 虔二 委員

欠席委員 なし

出席理事者 福井 観光局長

林 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 当面の諸課題について

(2) その他

<会議の経過>

○岩田委員長 ただいまから、観光振興対策特別委員会を開会いたします。

本日は、森川委員が少しおくれるとの連絡を受けていますので、ご了解願います。

議事に先立ち、一言ご挨拶申し上げます。

本日はご多忙のところ、ご出席いただきありがとうございます。私と辻本委員が、さきの6月定例会で当委員会の正副委員長に選任されました。今後、委員各位並びに理事者のご協力、ご支援を得て、円滑な委員会運営に努めてまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

次に、出席を求める理事者についてですが、去る7月14日の正副委員長会議でお手元に配付のとおり決定されていますので、ご了承願います。

次に、委員会の運営についてですが、お手元に配付しております今後の委員会の運営に

ついてを説明させていただきます。

1の所管事項及び調査・審査事務については、記載のとおりです。

2の議論の方向についてですが、昨年の委員会設置から議論していただいたものを、一定の議論の方向として取りまとめたものです。

3の委員会の運営ですが、今後、所管事項に係る調査並びに審査を行うとともに、ただいまの議論の方向による委員間討議を行いながら、4の当面のスケジュールに沿って、来年、平成27年の2月定例会におきまして委員会としての成果を報告したいと考えておりますので、よろしくお願いします。

ただいまの説明についてご意見がありましたら、ご発言願います。

それでは、当委員会は、引き続き委員間討議の時間も取りながら、調査並びに審査を進めてまいります。

次に、事務分掌表をお手元に配付いたしておりますので、参考にしていただきたいと思います。

それでは、案件に入ります。

当面の諸課題について、質疑等があればご発言願います。

○小林委員 3点質問させていただきます。

1点目は、登大路駐車場のバスターミナルについてです。

登大路駐車場のバスターミナル化は、観光団体や周遊バス、奈良公園への交通渋滞対策及び魅力向上に向けた施策の実施ということになっております。奈良公園エリアの交通渋滞はこれまでも大変話題になっているのですが、ターミナル化によって渋滞解消が本当に進められるのかどうか、そして今年度はターミナルの詳細設計と附属施設の基本実施設計をするとされておりますが、どこまで進められており、また、設計図などはどこでどのように明らかにされるのか、お尋ねします。

2点目は、奈良公園の芝についてです。

6月、奈良公園登大路園地で開かれたイベントで、テントを撤去した後の芝が傷んで土が露出して、異臭を放つ部分もあって、芝の張りかえが行われたと新聞で報道されました。見えている部分の損傷は昨年より軽く、回復できる見込みということですが、土の変色と異臭については原因を調査中と報道されていきました。今回の傷みの原因をどのようにお考えになっておられるのか、それから土の変色と異臭の原因の調査は行われたのでしょうか、お尋ねします。

3点目は、若草山のモノレール計画についてです。

7月30日に開かれた奈良公園地区整備検討委員会での若草山モノレール計画に関する議論は、大変多くの方から注目されておりました。翌日の新聞各紙では、一斉に、若草山モノレール計画頓挫、委員の大半が反対、バス活用案が浮上したと報道されました。県は検討を中断する意向、あるいは一時棚上げをするという表現で各紙が一斉に報道しておりました。

モノレールについては、1つ目は、モノレール建設が美しい眺望を阻害するという観点から、2つ目には、この地域一帯が世界文化遺産として登録された春日山原始林のバッファゾーン、緩衝地帯であって、史跡の値打ちを損ねるものであるという観点から、開発は中止すべきとずっと主張してまいりました。知事も、中止も視野に入れて慎重に議論をしていくと答弁で述べられまして、奈良公園地区整備検討委員会の今回の動向、あるいは議論をかなり重要視されていたように思います。

モノレールに関する検討について、新聞報道では、中断、棚上げという表現でした。言葉の世界になると思いますが、中断というのは途中で一時断ち切ること、一時途絶えること、続き物が途中で途切れることという意味でした。それで、モノレール計画の復活もあり得るのかということと、あるいは奈良公園地区整備検討委員会の議論を踏まえると、中断、頓挫、もしくは中止されるしかないと考えるのですが、この点はいかがお考えになっているのか、お聞きします。

○堀内道路環境課長（仮称）登大路ターミナルの件について2点ご質問がございました。

まず、1点目の渋滞対策の効果についてですが、奈良公園内には現在、大仏前駐車場と高畑駐車場の2つの駐車場で予約システムを導入しながら適切なバスの駐車場運営を行っているところですが、観光シーズン等では大仏前駐車場で満車状態になりますと、特にバスですが、駐車待ちの車両による渋滞が大仏前駐車場の入り口から大宮通りまで発生している状況です。このために、（仮称）登大路ターミナルを整備することにより、この駐車待ちの車両をターミナルに誘導することによって渋滞が解消されるものと考えております。

2点目です。設計等の進捗状況ですが、奈良公園の魅力向上に資するためのターミナルの附属施設及びターミナルについてですが、現在、有識者や環境保護団体、NPOなどで構成されています奈良公園地区整備検討委員会で議論していただいているところですので、今後ともこれらの議論の内容を踏まえるとともに、文化庁等関係機関との調整もありますので、附属施設を含めたターミナルの詳細を、今後そういった状況を踏まえながら早急に

進めていきたいと考えております。

なお、その公表時期については、今のところ未定です。以上です。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） まず、奈良公園登大路園地が、ことしのオクトーバーフェストというイベントをさせていただいたときに、昨年
に続き芝が非常に傷んだことに対するお問い合わせです。昨年は確かに芝の張りかえもし
て結構手間がかかったということになっておりますが、ことしは芝の張りかえ等は一切し
ておりません。去年の芝の傷み等を十分考慮して、主催者側と事前に芝の養生のための措
置をとらせていただいていたと思います。例えば、雨天を考慮した保護マットを敷いたり、木材
を使ってできるだけ芝に影響を与えないようにしました。その中で、イベントが終わった
後、非常に芝が黒くなった部分、においがした部分で県民及び観光客からいろいろとご意
見をいただいたわけですが、現在、目土ということ、土を入れて普通に戻すという形の中
で、きのう見てまいりましたが、ほぼ原状に戻りつつある状態です。きちんと事前にとつ
た措置が功を奏したということですので、あと1カ月から2カ月の間にはほぼ当初の状態
に戻ると考えております。

それから、芝が黒くなったことと異臭の原因についての調査についてのお問い合わせで
す。いろいろとその専門の方にご意見を聞いたところ、鹿のふんが発酵したのではないの
かというお答えでした。要するに芝の上から保護マットで少し押さえつけていた部分があ
りましたので、そういうにおいがしたと。今はもう黒色の部分は普通に戻ってしまして、
においも消えているというのが現状です。

それから、若草山のモノレールですが、先日、奈良公園地区整備検討委員会をさせてい
ただいて、多くの方から注目を浴び、いろいろな意見をいただきました。大半の委員から
は、もうモノレールではなくバス案を考えてはどうかという意見をいただいたところ
です。同じ話を聞いていただいていた中で、各新聞社の書かれている内容がそれぞれ個性ある書
かれ方をしていましたので、我々としてはどうなのかという思いはあります。しかし、頓
挫した、断念したと申していただく部分については、今の段階で我々がそれを言ったわけ
ではなく、奈良公園地区整備検討委員会からバス案がどうですかという意見をいただいた
のを真摯に受けとめて、まずはバス案を検討していきましょうというのが我々の考えです。
またその検討結果については奈良公園地区整備検討委員会に、バスであっても、環境、眺
望などいろいろな問題が出てくると思っていますので、しっかり検討していきたいと思っ
ております。以上です。

○小林委員 登大路駐車場のバスターミナルの問題ですが、その設計について、いつの時点で公表できるかが未定であるという答えでした。これまでもこのバスターミナルについては、環境にマッチした施設であるべきだということで、高さやデザインなどについて意見も少し申し上げてきたところです。だから実際にどのように考えられるのかについては、広くこれを示していただきたいということもあり、公表されて、全体的にこの意見を聞く機会もつくる必要があると思うのですが、この点についてはどのようにお考えになっているのか再度お尋ねします。

それから、奈良公園の芝について、現在、ほぼ原状に戻っているということですが、奈良公園の芝生が非常に大事なものだということは共通の認識だと思うのです。かつて固有の種類芝生が奈良公園は大変強い、大気汚染などに強い芝生だということがニュースで書かれておりましたけれども、実際にこういう問題が起こりますと張りかえということになるわけですが、イベントは、去年もあって、ことしもあってということは、毎年のように行われていくと思います。この点で芝の状態などについて、原因をお聞きしたのは、その原因をしっかりと把握していただいて、それに対する対策、計画的に芝の養生が必要になってくるのではないかと思います。今回は去年の経験を生かして保護マットなどをされたということですが、計画的な芝の養生という点ではこれからも考えていただきたいと思うのですが、この点について再度どのようにお考えかお聞きします。

若草山のモノレール計画ですけれども、奈良公園地区整備検討委員会での意見を重視して、当面は代替案でのバスの案を検討していくというお答えをいただきましたが、新聞報道の文言についてはいろいろな捉え方というか、個性的なという表現をされました。

ただ、先ほど申し上げましたように、ここまで多くの方々から指摘をされてきたわけですから、はっきりしたご答弁はなかったのですが、中止しかないという決断をされるべきだと思うのです。奈良公園地区整備検討委員会で増井委員長は、若草山の移動支援施設について、構造的なものの整備は難しいのではないかという思いを委員間で共有できた。バスについても舗装の問題などの課題があり、さらに慎重な検討を求めたい。今回の議論は若草山、奈良公園の価値を見直すきっかけになったと締めくくられたとお聞きしております。ですから、若草山のモノレールについて、若草山や奈良公園の価値を改めて多くの人々に問いかけ、問い返すことになったり、全国の注目が集まりました。さらにこれも広がりを見せていっております。県議会議員のところにも、平成26年7月11日付で奈良弁護士会から若草山モノレール設置計画中止等を求める意見書が大変詳細な経過を含

めて届いている状況です。

先日、読売新聞の今日のノートという欄に、このバッファゾーンというテーマで記者が書かれていたのですが、ことし群馬県の富岡製糸場が世界遺産に選ばれて、国内の世界遺産が18件になった。16年前に取材した世界遺産委員会京都会議では9件目が登録された。この9件目に選ばれたのが古都奈良の文化財で、このときに重視されたのは遺産周辺の緩衝地帯、バッファゾーンの役割であったと。春日大社と春日山原始林のバッファゾーンに当たるのが若草山で、遺産の価値を失わないよう周辺環境から守ろうという考え方が非常にこのときに重視されたと、当時取材された記者が言われました。私たちが次代に引き継ぐ人類共通の遺産のリストに掲載するのが登録ということであって、忘れてはならないのは、私たち自身が、リストに名前を上げたということで、今回のモノレール計画があるということに対して、多くの方々が反対されていることに関連してこのような記事を書いておられたのが印象的でした。

奈良県はこうした先人の思い、多くの人々の思いを大事にして、モノレール設置の問題について、しっかりと受けとめていただきたいという思いで、改めてモノレールの設置については中止するしかないのではないかとこのことを申し上げておきます。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） まず、登大路駐車場のバスターミナルのデザインをいつ公表するのかという部分についての再度のご質問だと思いますが、先ほど道路環境課長も申しましたように、奈良公園地区整備検討委員会に一度おおむねこういうような形でバスターミナルを考えていますというのを提出させていただいた経緯がございます。そのときは、どちらかといいますと県庁舎にマッチしたような形のもので一度ラフ案として出た経緯がございます。現在、その分については、文化庁はじめいろいろな奈良公園地区整備検討委員会の委員とも意見を交わしながら、奈良にマッチし、景観に配慮し、奈良らしいものとはどういうものかと思案をしているところです。できれば次回、もしくはその次、要は年内の奈良公園地区整備検討委員会には一度きちんとした形で出させていただいて、こういうデザインがいい悪いという意見はお一人ずつ聞けばいいのかもしれませんが、そうなるとなかなか前を向いていきません。まして渋滞対策は緊急性もございますので、我々としては奈良公園地区整備検討委員会の中でいろいろな方から意見を聞きながら、年内には案を出しながら進めていきたいと考えています。

それから、奈良公園登大路園地の芝については、若草山にあります固有種の芝ではなく、どちらかといえば半分雑草がまじったような芝でございます。芝にテントを張ったり、オ

クトーパーフェストのみならず、例えば大きな団体等でされる集会でも芝は傷んでいくもので、奈良公園室の整備で常時芝の管理は計画的にさせていただいています。ですから、今回も芝の張りかえは必要なかった、目土、要するに土を入れることで本来の芝の復元能力を使うというのも計画的に調整してきた経緯だと考えております。今後も奈良公園でいろいろなイベントをしたいという声もたくさんありますので、必ず主催者と十分調整した上で、昨年のように芝を張りかえなくてはならないということがないように、きちんと計画的にやっていきたいと考えております。以上です。

○小林委員 登大路駐車場のバスターミナルの附属施設等々の実施設計など詳細なことは、奈良公園地区整備検討委員会ということで、次か次ぐらいにはそういうものを出されるということです。そのときが公表といいますか、私たちもそれを見ることができるということでいいのですね。わかりました。

○梶川委員 2つほど質問したいと思います。

1つは、竜田公園のことで聞きたいのですが、竜田公園は、ちょうどこの時期に2つの大きな工事があります。1つは、現状の竜田大橋を震度7に耐えられる改造、それから、200～300メートル下に斑鳩バイパスができ、そこに新岩瀬橋という大きな橋ができたのですが、その工事があったわけです。周辺の住民には、竜田公園は格好の朝の散策の場になっております。私も近くに住んでいますから、毎朝歩いておりますが、その中で、竜田大橋は、ここで図面を出して細かく説明しませんが、でき上がった工事は本来水がたまるべきでないところである橋台のそばに水がたまります。そこを歩く人たちが、お年寄りはおばあさんから、40～50代の男性まで、「あそこに水がたまっているのは何ですか、あんな工事でいいのですか。」という質問をいただくのです。それで図面を持って国道事務所に、あれでいいのですかと尋ねたとき、よくないと思います、竣工検査が済んでいるのかどうかわかりませんが、そうしましたら、8月20日から3日間かけてあの水たまりはなくします、工事しますという電話が入りました。そこを何とかうまく利用して、石でも置いてくれたらいいのだがと思ってそういう提案もしたのですが、河川敷、河川の一角になるのでそういう構造物は置けませんとおっしゃるから、仕方ありませんということで、一応直してもらうことにした。

これはこれでいいのですが、そのときにいくつか投書が来たのは、竜田公園のもみじをどうしてくれているのでしょうかということだったので、これは県に聞きましたら、もみじを馬見丘陵公園へとりあえず疎開させているから工事が終わったら帰ってきますというこ

とです。このたび工事が終わったから帰ってきていると思うのですが、大分工作したようなもみじが植えられている。枯れているものがあるのです。

そういうもみじを管理するのは、県か、国か、あるいは委託を受けた植木屋が責任を持って最後までされるのか、聞かせていただきたいと思います。

それから、2つ目は、若草山のモノレールについてです。私も7月30日の奈良公園地区整備検討委員会を傍聴しました。その委員全員だったと思うのですが、批判的な意見だったので、県が中止も視野に入れてこれから議論をしていくという意味では、もうこれで中止せざるを得ないと思いました。県も同じように認識をされたのかどうか、その点を先ほど大体答弁されているようですが、一度明確に、中止も視野に入れるという部分では、そのようになるのではないかと思います。

それと、バスの件で、どなたかがおっしゃったのがずっと誘導されるような形で皆バスを肯定するようにおっしゃっておりますが、このバスというのはどういうバスを指しているのでしょうか。現状の春日山ドライブウエーで一番上まで上がって、そこから特に夜景は日本三大夜景の一つに最近選ばれたようですから、現状のままでのバス運行を考えておられるのか、あるいは上から逆に一層目までおりの車道をつけることを考えておられるのか、その辺は県がどういう説明を委員にされてきたのか、道路がついたときに、国際記念物遺産会議（イコモス）の議論のときにいただいた資料では、このような道路をつけること自身に議論はなかったのか、世界遺産に申請するときに議論があったのではないかと思います。今バス案が出てくるというのはどういうことが想定されるのか。

それとあわせて、バスで行く場合は、例えば奈良交通が今でも夜景を見に行くバスを出す場合、有料になっていると思うのですが、逆に、入山料を取っているのを、むしろにぎわいを取り戻すという意味では、多少費用はかかるかもしれませんが、モノレールをつくってもバスを走らせても費用は要るわけですから、そこへ県の金をつぎ込んで、入山料をやめてフリーにしてしまうことがかえってにぎわいを取り戻すのではないかと思います。この辺の話聞かせてほしいと思います。以上です。

○中澤公園緑地課長 斑鳩パークウェイの工事に伴う、竜田公園のもみじの移植の件について答えさせていただきます。

まず、基本的な考え方は、工事を行うということで、原因者負担といえますか、責任を持ってやっていただくということになろうと思います。ただ、工事期間がかなり長期にわたりますので、その年度で終わるようなものであれば、仮のところに移植をして、また戻

すという形になると思うのですが、数年かかる場合、現に馬見丘陵公園に一度移植をして、そちらからまた戻すという形をとっております。ただ、そのときの馬見丘陵公園の管理をどういう形で直轄の工事事務所と奈良県で調整したか、その辺のところが資料として持っておりませんので、明瞭なお答えができないのですけれども、基本的にはその原因者のほうで責任を持って戻していただくということになろうと思います。以上です。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） まず、若草山のモノレールについてですが、委員のご質問の中で、奈良公園地区整備検討委員会の委員は全員批判的だったというお話もありましたが、私どもが聞かせていただいている限りでは、少数ではございますが、必要性もあるという意見は出ていたということだけ申し添えます。ただ、県としては、先ほどの小林委員のご質問にも答えましたように、奈良公園地区整備検討委員会からバス案が出てまいりまして、それが非常に有効なのではないかということになりましたので、我々はそれを受けとめ、前向きに検討していくというところですので、今の段階で中止、もしくは凍結などを言う段階ではないと思います。まだバス案そのものが、環境面、安全面などを配慮する必要性もありますので、そこはじっくり検討した上でお答えすることを考えております。

それから、そのバス案の内容ですが、バス案というのは新たに道をつくるというものではありません。これは外部の委員からのご意見としてこの前提案させていただいたものですが、若草山ドライブウエーの展望台へ行くまでの途中に管理用通路があります。この管理用通路は、若草山を維持管理していくためにどうしても車を乗り入れする必要があるときや、若草山の山焼きの花火のときにトラックが入るといった道があります。そこにバスが入れば、あえて舗装等の必要もないし、一重目のところまで行けます。要は、障害のある方、車椅子等でも行けるということをその外部の委員はお書きになられて、これを検討してはどうかということになっているということで、決して誘導したわけではないです。ただ、意見の中には気球を飛ばしたらどうかという案もあったのですが、やはり安全面からも無理だろうと、バス案になったということです。

そういうことで、このバス案については、外部から聞いていた意見の中では一番実現性があるだろうということでご提案されたものと認識しております。

最後に、若草山の入山料については、以前も回答させていただいたと思いますが、無料にするという部分については、そういう意見もあるということは認識しておりますが、にぎわいづくりを考えたときに、無料にしてお客さんがふえるのかどうか、それから地域の

活性化を考えたときに、入山料は若草山の維持管理のためにも使われている部分もありますので、今後、奈良公園地区整備検討委員会にも出ていた話ですけれど、若草山のにぎわいをどうつくっていくのかという議論の中で検討していきたいと考えております。以上です。

○梶川委員 竜田川のもみじの件は、管理者、責任者がしっかり進めて、見てもらって、竜田公園の工事は大体済んだように思いますので、公園緑地課でも管理をしていただきたいと思います。

若草山の移動支援の件ですが、バス案はどんな内容かわからないのですぐ支持するというのはいきません。かえってモノレールよりもいけないのではないかという意見もあります。また、若草山のにぎわいづくりをするという意味では、無料というのにかえって効果があるのではないかと思いますので、そのようなことも検討していただきたいと思います。以上です。

○除委員 2点ほど質問したいと思います。

まず、1点目、新聞記事のじゃらの宿泊旅行調査2014という調査の件です。県内の観光案内所に高い評価ということで、各都道府県の魅力度を宿泊旅行者への調査をもとにランクづけするものです。8つの設問、テーマのうち、本県は、「現地でよい観光情報を入手できた」が今回7位、前は3位でした。「大人が楽しめるスポット施設、体験が多かった」は今回10位、前は4位と、いずれも順位を下げたものの、2項目でベストテン入りし、県内観光案内所の充実ぶりを評価する声が多く寄せられたということです。県内の観光案内所は、JR奈良駅、近鉄奈良駅が一番人が多いと聞いておりますが、JR奈良駅の観光案内所をこの前見ましたら、本当に狭いところで案内をされていたような気がするのですが、多くの観光客にそこで案内をされているということでしょうか。

一方で、「若者が楽しめるスポットや施設、体験が多かった」では全国最下位です。「子どもが楽しめるスポットや施設、体験が多かった」でも46位と、若者や子どもたちの人気はいま一つのようなことで、「大人が楽しめるスポット」では旅行者からは東大寺、法隆寺、奈良公園などの具体名が多く上がったということです。

このほか、「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」が44位、「魅力的な宿泊施設が多かった」が43位、「魅力のある特産品や土産物が多かった」は42位など、これまで指摘されてきた項目への厳しい声が続いたということです。これが、奈良県の観光の現状、実態かということです。

「大人が楽しめる」という点では上位なのですが、一方で若者、子どもたちが楽しめる施設、体験、これを奈良に求めるのはどうなのでしょう。こういった観点で観光振興の面から何か考えていらっしゃる点がありましたらお聞かせいただきたいと思います。

2点目は、ムジークフェストならの件です。無事第3回目が終わりましたが、総括ということで、少しお聞かせいただきたいのと、今回3回目を迎えて、よくなった点、またまだまだ検討課題といった点も含めてお聞かせいただきたいと思います。

○吉田観光プロモーション課長 観光についてのお問い合わせです。委員が説明されたのは、先月、じゃらん、いわゆるリクルートが発表された旅行先を選んだ理由等々であると思います。

その中で、委員もご指摘されたとおり、本県は非常に上位にランクインしているところもあれば、非常に厳しい評価をされているところもあります。ただ、「特定の観光地、観光スポットに興味がある」では、実は2013年は奈良県は10位ではありましたが、2012年では1位でした。あるいは、「大人が楽しめるスポット」では、2013年は奈良県は10位ではありましたが、2012年は奈良県は4位でした。奈良県は寺社仏閣で人気が高いということでもあります。「現地でよい観光情報を入手できた」も、2013年は奈良県は7位でしたけれども、2012年は3位ということで、若干ランクインしているものの、2012年と比較すると2013年は下がっている状況です。当然、しっかりとPR活動をしていく必要があるかと思っておりますし、観光素材というのは、神社や寺にも協力していただきながら、いい素材をしっかりと提供する。あるいは市町村も一緒になって首都圏等でしっかりとPRしていく必要があると思っておりますし、その時期を、旅行業者、エージェントが必要な時期にしっかりと提供する必要があると考えており、本年5月に、次の秋冬の旅行素材を提供できるような首都圏等で観光キャンペーンも実施したところでもありますし、10月には次の春夏ものの素材を、首都圏でPRしようということで、現在いろいろな関係機関等に働きかけをして、素材を集めて実施するようにしております。

まだまだ子どもや若者が楽しめるスポットという切り口でいいと思いますと、具体的な素材はなかなか出てこないかもわかりませんが、庁内の部局などとも連携しながら、いい素材を見つけて、効果的なプロモーション活動を展開していきたいと考えております。以上です。

○竹田文化振興課長 ムジークフェストなら2014についてのご質問ですけれども、こ

として3回目になるわけですが、本当にことしに関しては、おおむね天候にも恵まれ、16日間にわたり特に大きな事故なく開催されてよかったと思っております。

特にことしについては、新たな取り組みとして、東大寺近くの春日野園地で週末4日間野外コンサートを実施しました。コンサートだけではなく、キッチンカーなど物販等もあり、聞いて歌って踊って飲んでと、春日野園地で長時間滞在して大きな楽しめるイベントになったと考えております。

なお、ミュージックフェストならば、奈良市を中心にスタートしたわけですが、ことしについては県内各地への広がりということも重要視しており、去年は7市町村での開催でしたが、ことしは16市町村まで開催場所が広がったところです。

また、市町村でも自主的な取り組みということで、御所市、王寺町、川上村については、みずから主体でミュージックフェストならの開催をしていただき、大きな盛り上がりを見せました。今後も県内の市町村の広がりを大事にしたいと考えております。

またあわせて、連携イベントとして、先ほど小林委員からのご質問もございましたが、オクトーバーフェスト等々にもたくさんの方が来られまして、6月の観光のオフシーズンという観点から見ましたら、一定の大きな盛り上がりが見られたと考えているところでございます。

いずれにしても、オフシーズンの対策という形で3回の開催をさせていただいたわけですが、引き続き県民の皆様方のご支援をいただきながら、オフシーズンの風物詩というような形で定着できるように引き続き頑張っていきたいと思っております。以上です。

○除委員 若者が楽しめるスポットという観点は、県としてお持ちなのかどうか、連携して今後検討していきたいということなのか、その辺をもう一度お答え願いたいと思います。奈良県内にあった若者、子どもが楽しめる施設が次々となくなっておりますし、この夏に東京から親戚の子どもたちが来るけど、どこに行ったらいいかと言っていろいろ相談されるのですが、県のアニマルパークか、生駒山上遊園地か、馬見丘陵公園か、馬見丘陵公園は少し暑いかもしれないと言いながら、それぐらいしか浮かばないのです。家族連れで来る方もいらっしゃると思いますので、今度開園したプールもありますし、そういったところかと思ったりするのですけれども、そういう若者が楽しめるスポット。奈良公園へ行ってもあまり食事するところもないといった声も長年聞いてまいりました。少しずつようやく夢風ひろばというところできているのですけれども、まだまだ若者が楽しめる、そういう観光した後、食事を楽しむところもまだまだ少ないと思ったりしています。先日も奈

良の土産物にはどんなものがありますかと改めて聞かれると、みむろもなかか、奈良漬か、柿の葉ずしか、それぐらいしか出てこなかったのですが、もっと10も20も出てくるようにならなければいけないと思ったりしているのですけれども、質問の中に当てはまる場所がありましたらお答えいただければと思います。

ムジークフェストならについては3回目ということで、市町村との連携も深まってまいります。他市、県内開催地もふえてまいりましたし、今後継続して広がっていくように願っております。

ムジークフェストならもだんだんと周知されてまいりますと、1つの公演等に、無料であれ、有料であれ、たくさんの方が申し込むのですけれども、たまたま無料のところ、5カ所申し込んで5カ所とも外れたという方がいらっしゃいました。たまたまそういった方の声を聞かせていただいたので、何とか1つでも参加できないかをお願いして、1つか2つ参加できて喜んでおられたのですが、今後そのようなことも発生すると思うのです。ですから、みんなに楽しんでいただくためには、5回申し込んで5回とも参加できなかったということになると、意味もないし、楽しんでいただけないこととなりますので、対策を考えていただければということをお願いをしておきます。

○山口観光産業課長 委員のご質問の主旨は、若者、子どもを視野に入れた対策をとっているのかといった点かと思えます。

現在、観光局において、20代、30代向けの女性に奈良を再発見していただきたいと、今までPRは足りていたのかどうかという反省点にも立ち、この秋以降、奈良の記事を露出していただく、タイアップ記事をどんどん仕掛けていく取り組みを進めております。特に女性に人気のスポットというのはどういうことなのだろうと検討を始めており、例えばパワースポット、絶景、癒やし、それからグルメといったことかと思っております。同時に、子どもではわからない、本当に地元密着型の情報もあわせて発信をしていくことにより、各地から奈良へお立ち寄りいただく、またひいては泊まっていたいただくという仕掛けを始めております。まず第一弾、9月末から順次いろいろな雑誌に掲載をしていく取り組みを始めているところです。楽しみにしていただければ幸いです。

また、観光プロモーション課長からも申し上げましたが、5月にはこの秋冬の旅行商品等の説明会も実施してキャンペーンを行っております。次に10月には春夏の商品を発表しながら、首都圏でキャンペーンを繰り広げていく予定です。今まで奈良の旅行商品は春夏集中で取り上げられることは非常に少なかったです。春夏といったときに、奈良に関し

ては、非常に暑いといったイメージを持たれてしまっているのではないだろうか。委員がおっしゃいましたように、いわゆるテーマパークがあるところでもないことを考えますと、例えば中南和地域に着目したら、大きな自然があるではないかということで、子ども、ファミリー向けにこのような過ごし方はどうでしょうかといった旅行商品を市町村と一緒につくっているところです。9月中には商品をつくって、またセールスに動きたいと思っておりますので、中南和地域で商品になってこなかったもの、ある程度ネームバリューはあり地元の方は知っておられても発信が少し足りなくて注目を浴びてこなかった商品などを旅行商品に仕立てていくことにより、首都圏、また広く全国からお客様を集めるための下地をつくっているところです。以上です。

○除委員 奈良県内にはいろいろな顔があります。奈良市、奈良公園だけではありませんので、南部へ行けば自然が美しいですし、また食べるものもおいしいものがありますし、幅広く奈良県内の各地に来ていただく、今後そういうご努力、ご検討をしていただくということです、お願いしたいと思います。

これは奈良県がつくっている和母（わはは）という、女性の起業家、県内8人がネットワークを組みながら、それぞれブルーベリーを栽培しているところ、ばあくのレストランであったり、それから笠そばであったり、いろいろあるのですが、8カ所全部行ってきましたが、本当にこのパンフレットどおり、見て、触れて、食べて、癒やされて、近くの温泉に入って帰るのですが、立派なグリーンツーリズムができます。奈良県内にこんなおいしいものを食べさせてくれて、観光はどこでもありますので、それを見て、そして汗を流して温泉に入って帰る。もう立派な日帰りの旅ができるのです。こういった視点も、ぜひともそういう観光の一つに取り入れていただければありがたいと思います。何度でも行きたい。この和母（わはは）の8人が、10倍になり、また100人になりというものをネットワークでつくり上げていただくと、わかりやすいのです。どこ行くと、そこに食べ物屋を目指して行く。その周辺を見る。そして周辺の温泉に入る。これで一つ日帰り旅行、グリーンツーリズムができるのです。これも一つの観光だと思いますので、農林部でされている女性の活躍を後押しするという意味で、また女性の視点の入った食べ物屋であったり、ブルーベリー栽培であったりするものなので、県庁内でも連携をしていただければもっと広がるのではないかとお願いしておきます。

○森川委員 観光について、関西広域連合で、周辺の地域と広域連合を通じて進められている部分と、関西広域連携という部分での何か弊害があるのかどうかお尋ねします。奈良

県は奈良県独自で関西広域連携として観光をどのように進められているのか。京都府や大阪府は関西広域連合で協議しています。奈良県は関西広域連携で他府県と協力しています。少しこの辺の温度差はあるように思いますので、どのように他府県と協議をされているのか教えていただきたい。

それと、いつも思うのですが、奈良県が実施しているこの大きなムジークフェストならも、またさまざまなイベントも、何か奈良市だけを重点的にされている。県の事業をされる時に、奈良市を重点的にやる。各市町村は、地域は、地域が村おこしで勝手にやればいいと。そこにその波及効果とさきほどおっしゃいましたけれども、波及効果を見せるのはいいと思います。そうであれば、各地域でもムジークフェストならでも、いろいろなそのイベントを各地域に年間トータルして回ったらどうですか。奈良市の、なぜ奈良公園だけでしかできないのか、わからない。馬見丘陵公園もありますし、またさまざまな県の施設もあります。そういう意味では、各市町村を回ることなど、県が実施するのだから県全体のことも考えながらやっていただきたいと思います。現在、平城宮跡に100円バスというぐるっとバスも、県が出資されて、運行されているバスかと思います。また奈良公園でもされています。ほかの地域にも観光地があるのに、なぜそこにそういうシェアを充てて、県が率先して費用を出して、テストでもやらしてもらえないのかと思います。奈良市だけ、平城宮跡だけが奈良県の観光施設ではないと思います。奈良県全体で考えて、ぐるっとバスも走らせていただけたらと思うのですが、この辺について県としてどのように思われるのか、今後奈良公園だけでこういう大きなイベントをされていくのか、教えていただきたいと思います。

○吉田観光プロモーション課長 関西広域連合、あるいは関西広域連携等々の関係についてです。特に国際観光、外国人の観光客の誘致に努めているところでございますが、ご承知のとおり、関西広域連合には加入はしておりませんが、必要な情報については当然オブザーバーとして会議等には参加もできますし、情報収集には努めているところです。

ただ、外国人の観光客の誘致に当たっては、国のビジット・ジャパンといういわゆる地方連携事業を積極的に活用しており、関西の他府県と連携をとりながら、また、民間事業者とも連携をとりながら、効果的なプロモーション活動を実施しているところです。

当然、観光については、そういう他県との連携も重要ですし、事実、一緒になって取り組んでいるところですが、一方で、各地域が競争して観光地としての魅力を切磋琢磨するということは重要だと考えており、当然本県には他県にない魅力がたくさんあると

も考えておりますので、そういったところをうまく、他県との連携もうまく活用もしつつ、本県独自の取り組みをしっかりと取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○堀内道路環境課長 観光ぐるっとバスの件についてです。ぐるっとバスは、現在奈良公園周辺、奈良市内で運行しているのですが、他地域での運行についてというご質問でした。

ぐるっとバスは、世界遺産である奈良公園や平城宮跡等を含む奈良市中心市街地において、あくまでも春や秋、それ以外の夏休みであったり、観光シーズンの交通渋滞対策として、バスによる交通環境を整えるとともに、公共交通の利用促進と中心部への車両流入抑制を図る目的で、奈良公園、平城宮跡を管理している奈良県が運行しているものです。そのぐるっとバスを、例えば馬見丘陵公園や中南和等の地域に走らせるとなれば、それが可能かどうか、当然その地元市町村やバス事業者とか、その経費の問題もありますので、関係機関とその必要性等を十分検討していく必要があると現在は考えております。以上です。

○福井観光局長 イベント等、あるいはにぎわいの施設、そういった拠点施設が北部に固まっている、あるいは北部を中心に展開されているのではないかというご質問をいただきました。

実は、ことしからその観光の取り組みをより部局横断的にやっていくということで、一番奈良県の観光施策の上で課題となっている点を、10ほどの大きな柱を立てております。その中には、確かに1番目は宿泊産業が全国的に見て極めて低いという課題もあります。そしてまた、食や土産などが非常に少ないという課題。また、いわゆるおもてなし環境、観光の環境が十分整備されていない点。委員がおっしゃったような観光のイベントが各地域に余らないという課題。そういったものも課題としてきっちり押さえながら、やはり県内それぞれ各部局が幅広く取り組んでいくという、そういう認識を新たに目標として掲げて取り組んできております。

それで、決してイベントが北部だけに固まっているというわけではありませんし、観光の拠点施設も北部だけに固まっているというわけではありません。委員にご指摘いただいた、例えば馬見丘陵公園にしても、馬見丘陵公園でフラワーフェスタという形で各季節ごとに取り組んでおりますし、またそこでは食も音楽も一体となったイベントを実際展開されておられます。また、南部地域ではなんゅう祭という、10月に開催されます、五條市で取り組むイベントもあります。こういった形で県内でそれぞれにぎわいをつくっていく。北部だけではなくて、県内の各地域に訪れていただけるようなにぎわいづくり、そういったものも、先ほどから申しておりますように、一定そういうふうな魅力をつくって、そこ

を周遊できるような取り組みを進めていくことを今後も強く考えているところです。

平城遷都1300年祭が終わって以降、観光局ではめぐる奈良という事業を継続して行っております。社寺を中心として、まず奈良の特徴的な取り組みを行っておりますけれども、それ以外に各市町村のさまざまな取り組みも中に入れ、一体的に観光の魅力の観光素材として今後も発信していくことによって、奈良全体の魅力がより一層パワーアップできるのではないかと考えております。今後もそういう広い視野に立って進めていきたいと思っております。

○森川委員 奈良公園内でされる大きなイベントを、奈良公園の中でされるだけでいいのかどうかを提案させてもらっています。今されている大きなイベントを、仮に馬見丘陵公園や各地域でもやれないことはないという思いで一つ提案とさせていただいて、奈良公園だけで何年も開催されるのであれば、たまには中南和地域でこういうイベントを一回やりましょうという計画を立てていただきたいと思うので、質問させていただきました。

それから、関西広域連合では、現在各周辺の観光という取り組みが進められている。その進められている内容を、県としてもどんなことをしているのかということ、しっかりと把握していただきたい。関西広域連合に参加しろという話ではないのです。関西広域連合で現在観光についてどんな取り組みをして、どういう業績を上げているのか、どういふところがおかしいのかということが、奈良県民として関西広域連合の動きが大変気になります。何か奈良県だけが浮いているような感じを受けるときもあります。そういうところを、関西広域連携として県が進めているのであれば、その関西広域連合でされている観光の周遊計画にどのようにして奈良県は入っていくのか、どのようにパイプをつくっていくのかということ、情報収集していただきたいし、それをもって奈良県が各県に対してどのような連携をしてくれるのかという話もしていただきたいと思って、質問をさせていただきました。

日ごろしっかり取り組んでいただいて、観光客も大分ふえていると思うのですが、平城遷都1300年祭のときにどういう要望が多かったのかといえば、奈良県にこれだけの国宝級などいろいろな見るところがあるのに、なぜ奈良県はそれを出されないのかという話があったわけです。先ほどバスの話もありましたが、奈良公園や平城宮跡などは、放っていても観光客は来るわけです。そういうところにどんどん観光客を入れていくのであれば、平城遷都1300年祭のときに奈良県全体の中でこんなにたくさん観光地があるのに、そこを回れるようになぜ取り組んでいかないのか。ぐるっとバスも、今後また各地域でテス

ト的に考えていく、取り組んでいくという答弁もいただきましたので、奈良県の再発見として、ぐるっとバスは県が全額出資ですが、各市町村で実施するときは市町村の費用負担もあるという答弁でしたけれども、反対に県が全額出して、一回テストパターンの観光バスを走らせていただきたいという思いです。

○岩田委員長 若草山のモノレールの件についての私の思いです。いろいろなところから意見が相当出てきたと思います。観光振興対策特別委員会でも昨年からずっと議論しているわけですが、もうそろそろ結論を出されてはいかがかと思いますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

ほかになればこれで質疑等を終わらせていただきます。

それでは、これもちまして本日の委員会を終わります。